

# 穎上本蘭亭序

三五三年  
(東晉・永和九年)

碑法帖拾遺 ⑫

木 雜

木 雜室

伊 藤 滋

図(1) 穎上本蘭亭序残石



原刻

翻刻

図(2) 原刻・翻刻比較



明時代の嘉靖八年（1529年）、穎上県の村民が地を耕して蘭亭序の刻された石を得たと。また穎上県の井戸の中から発見されたと伝えられる。それで『穎上本』『井底本』などと称されている。この刻石の一面には『蘭亭序』がもう一面には『黃庭經』が刻されていた。この刻石はその後、壊れて小塊となる。

近年、この残石が北京の書道雑誌に紹介された。図(1)。この壊れる以前の完全な原拓は非常に珍しい。昭和蘭亭会に出品され、その図録に朱刷にして載せられている『穎上本』

は、後の翻刻である。仔細に検討すると、原刻は字画がやや太く、筆勢がのびやかである。図(2)。この『蘭亭序』はところどころに刻されていない文字があり、その書風は『定武本』や『開皇本』『神龍本』などと異なり、やや後の書風を示している。古来、宋の米芾の臨摸本をもとに作られたと考えられている。しかし、その書風は澄んだ趣のある静かな筆致を示している。図版の『穎上本』は、以前に香港の書譜出版社から、『穎上黃庭蘭亭』二種・東陽蘭亭として刊行された原本である。

永和九年歲暮

暮春之初會

于會

禊事

也羣賢畢至少

咸集

地

有<sup>崇山</sup>此<sup>之</sup>領<sup>此</sup>茂

湍映帶左右引以爲流觴曲水

列坐其次雖無絲竹管弦之

# 書道藝術院 平成の書(2008)



## 塚 根 東 翠

書道藝術院展

參與會員

米寿を過ぎてはや卒寿  
光陰まさに矢の如し  
追憶の絲果てしなく  
只感謝と よろこび

「卒」寿は迎えましたが、書の「卒」  
業はしたくありません。旅順にいた頃、金洲城外「斜陽の丘」  
に建つ乃木將軍の「山川草木」の詩碑  
を見て、詩もさることながらその文字  
の立派さに驚嘆しました。

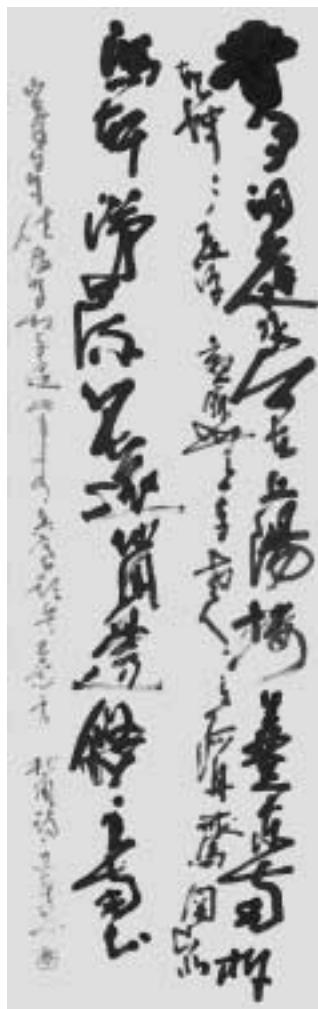
師範学校の書道の内田祥穂先生は、  
専ら肉筆手本による指導で、主に唐  
時代の書の臨書でした。その手本の素  
晴らしさに感動したことでした。卒業  
時、先生から、「書道の文検を受けてみ  
ないか。」と言われ、大事に胸に刻み  
込んでおきました。

卒業後、北満のハルビンの日本人小  
学校に奉職しました。一年後、本格的  
に書道の文検受験の勉強にとりかかり

ました。先生は東京の鈴木雨村先生で  
文検指導の大家だったようです。  
これまた専ら肉筆手本による指導でし  
たが、実技の他、内容は多岐にわたっ  
ていました。東京とハルビン、二人の  
書は、何回日本海を渡ったことでしょ  
う。三年後、先生から、「文検合格大  
丈夫。」と言われた時の嬉しさは未だ  
に忘れることはできません。

乃木將軍の詩碑、内田先生の「文検  
を受けてみないか。」とのお言葉、鈴  
木雨村先生の「文検合格大丈夫」との  
お言葉、三人の偉大なる私の先生でし  
た。文検は書の基礎の基礎、「これか  
らが」と思いつつ今日まで…。書の現  
代化・伝統と創造等々多くの課題を抱  
えておりますが、迷いつつも前進する  
しかありません。

「次なる年は白寿なりけり」



塚根東翠書

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

心することの難しい時代、女性文化の貢献度大である。

衛夫人 則天武后  
光明皇后など

第二次大戦後

新しい時代感覚

現在 芸術の発展に適した平和な時代

日中交流は、それぞれの女流書家が、芸術的に発展する大きな機会。

(2) 基調報告「女性の書活動について」

7月、四川省の地震で延期になつていた、中国女流書家の訪日団57名が訪問した。

11月22日、北海道では、今年初めての寒波と大雪に出会い、24日は、東京で珍しい大雨を経験した。幸い、交流会の25日は小春日の東京で、10時から予定行事が進められた。

訪日団役員

团长 林岫 中国書法家協会副主席

副团长蔡祥麟 同 外聯部主任

同 張改琴 同 理事

同 宋慧莹 同 理事

日本側役員 外、外聯部、報道など57名

实行委員長 林蕉園

副委員長 松井玉等 柳澤朱簾

平野翠甫 宮崎紫光

砂本杏花 関口春芳

1、シンポジウム 毎日ホール

「女性の書活動について」  
(1) 基調報告「翰墨高誼を通じ、梅桜暖春を共にする」林岫

△交流会の内容▽

古代 日中両国共に女性が書に専

(右側まん中)



2、席上揮毫会  
翰墨縁深 林岫

(3) 意見発表

展覧会活動  
(中)張改琴、宋慧莹

(同)松井玉等、柳澤朱簾

3、歓迎昼食会  
レストランアラスカ  
歓迎挨拶(恩地春洋)の後、林

岫团长の挨拶、来賓紹介の後、

中国大使館何静先生のユーモア溢れる祝辞、会食後、日中双方の見事な合唱で盛り上がった。

お土産の交換が終つてなごやか



「暖」 砂本杏花副実行委員長揮毫

以書会友 張 改琴  
宋 慧莹  
青砥 相蓉

な雰囲気の中、砂本杏花副委員長の閉会の言葉で散会した。

## 「現代の書新春展」に八名

銀座の新春を彩る「現代の書新春展」は、院から8名が出品した。セントラル100人展は、60才以下の方々から選ばれ、力作を出品した。

○「翰墨通高誼 梅桜共暖春」  
梅 林 蕉園

○「梅 「鶴」 平野 翠甫

「桜」 「舞」 宮崎 紫光

「共」 「千」 砂本 杏花

「暖」 「年」 杏花

「春」 「樹」 関口 春芳

○「虹飛百尺橋 鶴舞千年樹」  
江戸時代 貴族文化の隆盛  
かなの誕生 寺小屋教育

○「春」 「樹」 関口 春芳

○「虹飛百尺橋 鶴舞千年樹」  
中国側(前句)書者不明

・五言対句を一字ずつ書いて並べた。台北展の経験を生かしてさ

らに見易く工夫されていた。

△席上揮毫▽の予定 何れも13時より

1月6日(火) 半田藤扇

1月7日(水) 千葉蒼玄

1月10日(土) 尾形澄神

(以上本院関係)

△席上揮毫▽の予定 何れも13時より

1月6日(火) 半田藤扇

1月7日(水) 千葉蒼玄

1月10日(土) 尾形澄神

## 現代詩文書（三）

### 尾形澄神



全国学生書道展併催指導者作品展（2006年）尾形澄神書 33×48cm  
「潮騒は貝のため息夏の果(はて) 渡辺圭子句」潮騒は貝のため息一この言葉に酔いしれた。波が打ち寄せては崩れていくようすを表現したかった。

古典は、できるだけ幅広く学んだ方が良いです。問題は、その学び方です。古典は中国、日本、そしてかなのが古筆を含めたら相当な数です。これらを全部、徹底して習おうと思ったら、展覧会の作品を書いている時間はありません。ひとつの古典を長期間かけてじっくり学ぶべきという意見もあるでしょ。が、私は手放しでは賛成できません。何故なら、人間は二つ以上のものを比較対照することにより、その違いや長所、短所を理解するからです。

古隸の筆意が感覺として体に残っているからです。そして、草書といえども運筆の速さには限度があることを知るのであります。おそらく、筆力も以前より強くなっているはずです。

古典は、一度臨書したらそれでお終いではなく、時間をおいて繰り返し学ぶことが望ましいです。習った古典がすべて栄養になるとは限りませんが、どの古典で自己を発見し、どの古典で自分を開花させるかは、習ってみなければ分からぬのです。

古典は、できるだけ幅広く学んだ方が良いです。問題は、その学び方です。古典は中国、日本、そしてかなのが古筆を含めたら相当な数です。これらを全部、徹底して習おうと思ったら、展覧会の作品を書いている時間はありません。ひとつの古典を長期間かけてじっくり学ぶべきという意見もあるでしょ。が、私は手放しでは賛成できません。何故なら、人間は二つ以上のものを比較対照することにより、その違いや長所、短所を理解するからです。

例えば、毎日、草書の古典ばかりを臨書します。そうすると、書き慣れてくるにつれて、自分で気づかなくないうちに、運筆のリズムがだんだん速くなっていく傾向があります。これは初心者の誰もが陥るよくある病です。

この場合、草書の合間に篆書か隸書を習ってみると良いのです。例えば古隸を習うと良いのです。例えれば古隸を学んだ後で古隸をやると、運筆のリズムがとても遅く感じられます。草書が走る感覺なら、古隸は牛歩の如しです。そうやって、ひとしきり古隸を習った後、再び草書に戻ると、以前とは違った感覺で草書の古典を捉えるようになります。

古隸の筆意が感覺として体に残っているからです。そして、草書といえども運筆の速さには限度があることを知るのであります。おそらく、筆力も以前より強くなっているはずです。

古典は、一度臨書したらそれでお終いではなく、時間をおいて繰り返し学ぶことが望ましいです。習った古典がすべて栄養になるとは限りませんが、どの古典で自己を発見し、どの古典で自分を開花させるかは、習ってみなければ分からぬのです。

## 漢字（三）

### 大内熒軒

## 21世紀の書

### —私の主張—



「思無邪」

大内熒軒書

感動・驚き・発見、これは新しいものを作るために必要なことだと思います。皆さんもご存知のマンネリズム（マンネリ）という言葉がありますが、これは独創性や新鮮さが欠けるという意味で、自分自身にとってマイナスになるから、陥りたくないものです。そのためには気分

轉換することが一番です。そして書の作りでは、いつも波風立てで、そういう気持ちで取り組むことが大切で、これこそが創作活動の源になります。

創作活動も鑑賞することも、感受性の豊かさが大きく影響してきます。書の作品を見て、「線がいいね」とか、「面白い字だね」とか、「変だね」とか、いろいろなコメントが発せられます。鑑賞で大事なのは、作品を見た瞬間に「美」を感じることだと思います。そのためには古典を学び、優れた作品をたくさん見ることで眼を肥やすこと、また違う分野のものを勉強して自分自身の心を成長させることだと思います。

24×33cm

今回は、「思無邪」と書いてみました。書体は漢簡をベースにして、遊び心を入れ、あえて大小、横線三本がのびやかにひけた気がしています。

書き終わって、どの距離で作品を見たらいいかと近くで見たり遠くで見たりと、部屋の中をウロウロ。そこへ息子が来て、この作品を見て、米を炊く「釜?」とひと言。

然退散假令遇之無不歡喜

諸善男子此呪假令一切衆生

或於一劫或無量劫乃至名字

不可得聞何況得見專心念

誦假令七寶像馬蒲間浮提

獨是世間滅壞之法此施羅尼  
呢能令衆生現世當來常

獲安隱與諸如來大菩薩

解説

この三十帖策子は、一頁の行数、一行の字数は一定していない。そして、大きい文字と小さい文字とがまじっている。さらに行がゆがんだり、まがつたりしている。

すなわち、謹嚴に、形式を整齊に書いた書跡ではなく、かなり自由に、おおらかに書いている。そして、ゆるやかな感じである。しかし、筆力がある。円熟した巧妙な書というよりも、素朴にして老大成した人の書のように見える。そのため、三筆のひとりに數えられている能書の逸勢の筆跡と考えられている。しかし、入唐したころの逸勢は二十歳ばかりであつた。

然退散。假令遇之。無不歡喜。  
諸善男子。此呪假令一切衆生。  
或於一切或無量劫。乃至名字  
不可得聞。何況得見。專心念  
誦。假令七寶像〈象〉馬滿閣浮提  
猶是世間滅壞之法。此陀羅尼  
呪。能令衆生現世當來常  
安隱。與諸如來大菩薩

何文字臨書してもよい  
(掲載部分以外は不可)

用紙 半紙普通判

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

(中央公論社  
書道芸術より抜粋)  
編集部

※落款を必ず入れる。  
署名、もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)

〈よみ〉  
挾手折多武山霧茂鴨細川瀬波驟祁留  
うちたをるたむのやまぎりしげきかも  
ほそかはのせになみさわぎけり  
等叙  
ふゆきなりはるべをこひてうゑしきの  
みになるときをかたまたわれぞ

冬木成春部然而殖木実成時片待吾  
豪気な性格だったらしく、書風も剛健莊重な趣をしている。歯切れ  
よいリズムで彈くような筆致は、豪快で氣宇も大きく意志的、優美  
典雅な平安朝古筆とはやや異なる独特的の躍動感である。伊房と同筆  
とされるものに「十五番歌合」「尼子切」などがある。  
(編集部)

※左記の掲載  
歌一首以上を書く  
(全臨も可)  
用紙  
・半紙普通判  
(料紙可)

挾手折多武山霧茂鴨細川瀬波驟祁留  
うちたをるたむのやまぎりしげきかも  
ほそかはのせになみさわぎけり  
冬木成春部然而殖木実成時片待吾  
寺叙  
すゆあすわけりつとじいへうとくさ  
すなうとうとくとくとくとくとくとくとく

習い方解説 (三)

西林乘宣

浮雲遊子意  
(浮雲遊子の意)



流れゆく浮雲は旅人のこころのもの＝『唐詩』李白・送友人の中の一節  
展覧会というと楷書は実に妙い。これはそれだけ難しいということです。「九成宮醴泉銘」あるいは「雁塔聖教序」を書いても、指導者はそれなりに一家言を持つているから、「九成宮」はこんな線ではない、もっとこうだああだと喧しい。そうなると文字どおり敬遠してしまうことになる。さらに創作となると一層その感を深くします。松本芳翠、上条信山といった先人は、一つの型を創り出しました。皆さんもいろいろと本を探して勉強してください。結体(字形)と線そして何も書かない余白も大事です。

習い方解説 (三)

依岡紫峰

謹禮崇徳 孔弘緒  
(礼をつつしみ徳をたつとぶ)

「禮」は、社会の秩序維持の生活規範をとしています。礼を生活中に生かすことが今の社会では欠けているところがあるように思えます。

「徳」は、道をさとった立派な行為をさします。徳をたいせつにすることを意味しています。

画数の多い四文字構成となっていますので、細線できれのよい線で書いてみました。

「謹」 言へんは右上り、旁のたて画をしつかりさせたい

横ひろがりにならないようとした

「崇」 しっかり、どっしりまとめた

「徳」 禮に対し、徳は横に安定

謹禮(礼) 崇徳 よみ(礼をつつしみ徳をたつとぶ)

書体=楷書

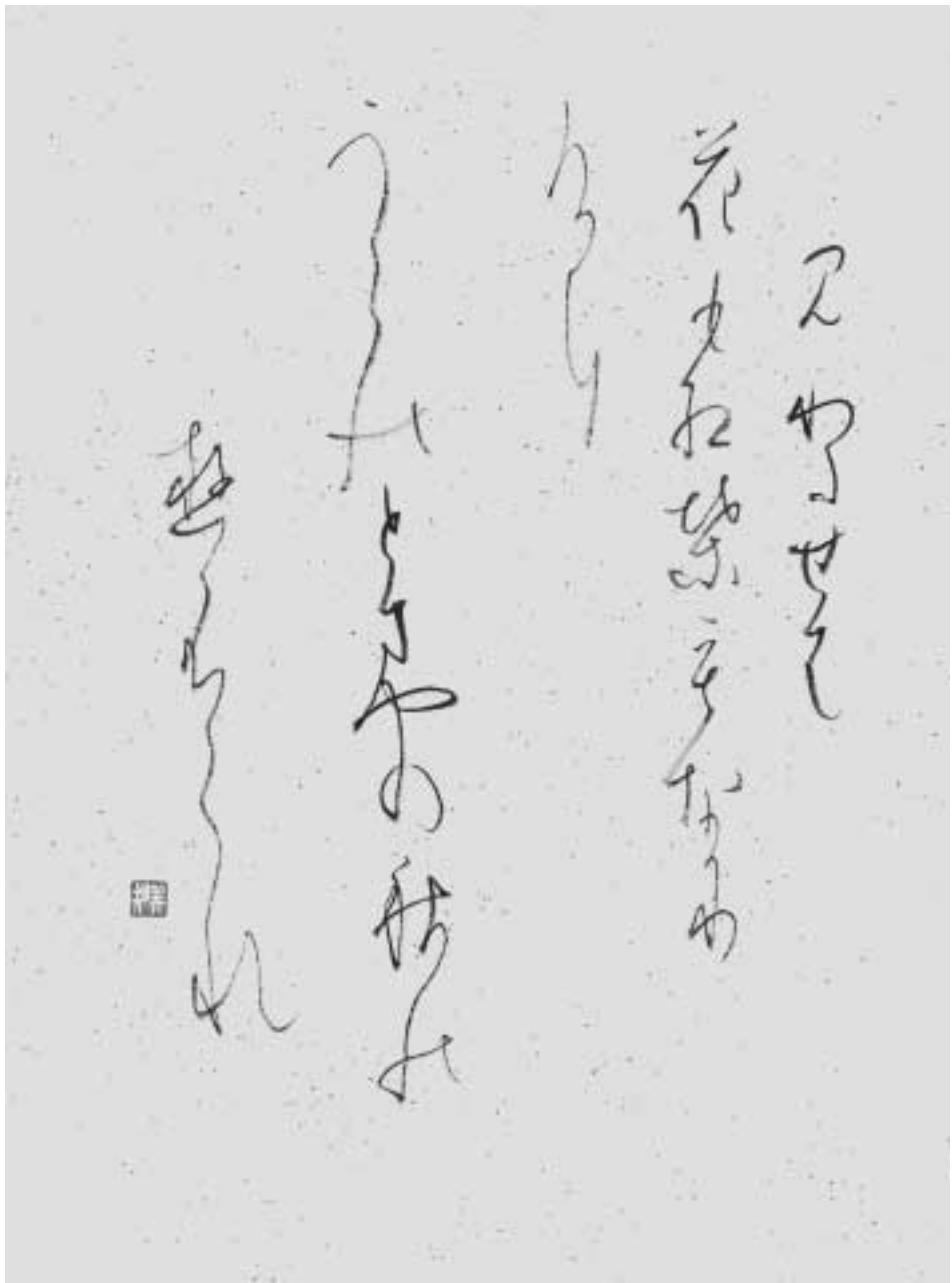


習い方解説 (三)

山藤美知子

見わたせば花も紅葉もなかりけ  
り浦の古屋の秋の夕ぐれ

(新古今集 藤原定家)



作品に変化をつけながら調和させることは大切なことです。二行目を長く、三行目「介り」をさらりと流すことによって全体に、やすらぎをみせ、四行目は展開と重量感を出し、五行目は余韻をのこして流します。

小さくまとまらずに大らかな運筆をと願います。

筆はいたちを芯に外側を羊毛で卷いた細筆で半分位おろして書いています。

よみ方 見わた(多)せ(世)ば(者)花も紅葉も(毛)なか(可)り(利)け(介)り

うらの(能)とま(万)やの秋の(能)ゆ(遊)ふ(不)ぐ(久)れ

創作

かな規定 秀級以下【一月二十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 よのな(那)か(可)のうきた(多)びごとにみをな(那)げ(介)ば  
ふか(可)き(支)た(多)にこそ(所)あさく(久)な(奈)りな(那)め

### 習い方解説 (三)

朝倉春江

朝倉春江選書

かな条幅規定【一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

山茶花の葉滑る花や霜の上  
(原 石鼎)

下の句の行は、文字をややすら  
してボリュームを出す「かな」独  
得の方法です。また、この下の句  
は「す・遍・流」の張った文字の  
影に添えるようにしてまとめましょ  
う。左右の間のとり方を参考にし  
てください。

\*たて形式に限る

よみ方 山茶花の葉すべ(遍)る(流)は(者)な(那)やしも(手)の(能)上

創作



漢字条幅規定 初段以上【一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

### 習い方解説 (三)

小林琴水

雪の積ったところに花開いた、  
美しい梅を想像しただけで、す  
ばらしい景色が浮かびます。

ゆっくりと筆を運び、あたたかさ  
を出しました。



雪満山中高士臥

月明林下美人來  
(雪は山中に満ちて高士臥し 月明の林下に美人来る)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

一谷春窓選書

### 習い方解説 (三)

一谷春窓

山や峰は冬の月に染め出されて見  
るからに寒い。今回は意の向くま  
ま、筆の向くままに書きました。

大胆に書こうとすれば粗くなりが  
ちで、丁寧に書きすぎると筆脈も  
切れて点画が間延びしてしまって  
転折で、しつかり筆を止め、そ  
の筆の弾力を生かして堂々と書い  
てください。惑わずに。

書体=自由



山峰染月寒  
(山峰月を染めて寒し)

習い方解説 (三)

安齋映心

私の首のようすに茎が簡単に  
折れてしまつた。しかし菜の  
花はそこから芽を出し花を  
咲かせた。私もこの花と同じ  
水を飲んでいる。強い茎に  
ならう。

知里書

富弘さんが花の絵を書きはじめる時  
「心は画用紙のように真っ白でありた  
い」と思いました。それは、同じ花で  
もよく見ると、一つ一つが人間の顔が  
違うように、それぞれの表情をもって  
いると知ったからです。文字を書くの  
も同じだと思いませんか。

ペン書きでは毛筆のような、濃淡、  
潤渴までは表現できませんが、強弱、  
細い太いなど、ある程度の抑揚は出せ  
ます。無理する必要はなく、ペン字の  
あるがままのよさを生かして書くのが  
よいと思います。

富弘さんは、口描きの筆にありつた  
けの力をぶつけて絵や詩を書きつづり  
人々の魂を揺さぶりました。

昨今、手書きの便りが少なくなりま  
した。新しい年を迎えるに当たり、五  
体満足の私達、せめて年賀状は自筆で  
書きたいものですね。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

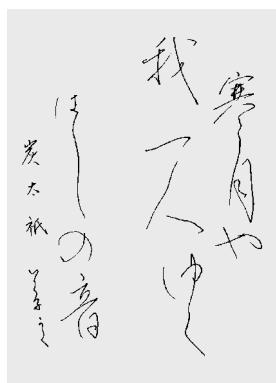
書体=自由

※落款を入れ忘れないようにしてください  
さい。(落款は自分の名前を入れて  
ください。)

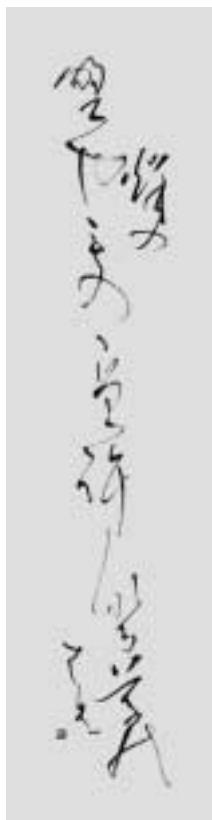
今月の

ホープ作品  
各部総評

No. 569



ペン字部 師範 岩上 郁子  
暢達した筆致で流麗さあふれる  
作。余白の美、行間の動きが詩情  
を引き立て見事な作品となつた。  
◎ペン字部總評 字数が少ないの  
で線質、構成に難しさがあつたが  
上位の作は運筆のリズムを生かし  
た作品も多かつた。 (孝予評)



前衛書部 特選 板橋 雅邦

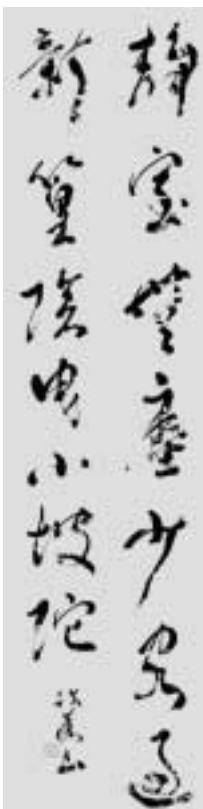
濃墨を駆使、筆線も強く大きな  
作で左側の始筆に対して右側の渴  
筆の線左右共鳴し大作をしのぐ力。  
◎前衛書部總評 前衛書は線が生  
命であると共に構図も大きな要素  
でありますので研鑽を。(如水評)



漢字条幅部 師範 井川 皓春

ゆったりとした呼吸で筆を遊ば  
せ、豊かな心情を伺わせる。安心  
して見られる品位のある書風。

◎漢字条幅部總評 「書は線なり」  
という。線に書者の性情が表現さ  
れるからである。王羲之の品位の  
ある線質を学ぼう。 (春洋評)



かな条幅部 準師 坂口とし子

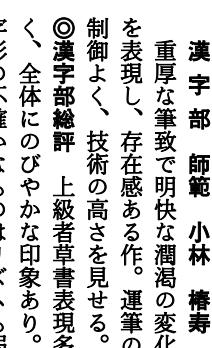
自然な流れだが、バネのように  
弾んだ線が生き生きとし、書が生  
き物であることを教えられる作品。  
◎かな条幅部總評 変体かなの不  
足の原字は所で、草書体になります。  
認識不足の方散見。また、花は華  
とは書きません! (洋子評)

現代詩文書部 特選 森田 藤谷

気力が充実し骨力のしつかりし  
た線で余白が美しい。横作品にふ  
さわしい文字造形がすばらしい。  
◎現代詩文書部總評 楽しんで筆  
を執ることはよいことだが、安易  
さが目についた。 (石雲評)



◎漢字条幅部總評 「書は線なり」  
いう。線に書者の性情が表現さ  
れるからである。王羲之の品位の  
ある線質を学ぼう。 (春洋評)



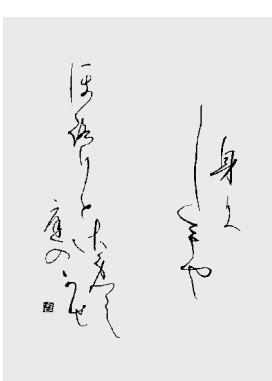
漢字部 師範 小林 椿寿

重厚な筆致で明快な潤滑の変化  
を表現し、存在感ある作。運筆の  
制御よく、技術の高さを見せる。  
◎漢字部總評 上級者草書表現多  
く、全体にのびやかな印象あり。  
字形の不確かなものはリズムも弱  
く感じる。基礎力を。(大雲評)



かな部 師範 杉浦 菊枝

やや字粒の大きい前半、押さえ  
めの後半のバランスがよく、中央  
に力のある余白を残して秀逸です。  
◎かな部總評 最初の文字で迷っ  
た作品が多く、課題の困難さを感  
じた。極端に字が小さく、墨量の  
少ない貧弱が目立った。(明子評)



◎かな部總評 最初の文字で迷っ  
た作品が多く、課題の困難さを感  
じた。極端に字が小さく、墨量の  
少ない貧弱が目立った。(明子評)



前衛書  
(四谷)

## 角田悠香 「音」

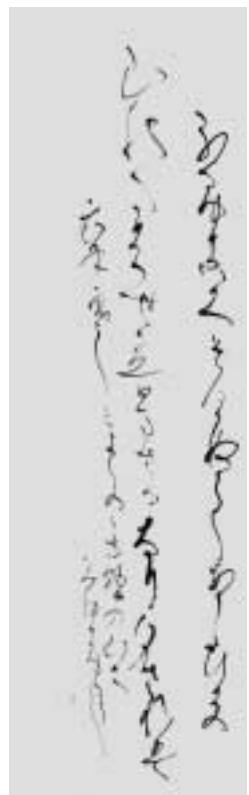


◆上部の重厚な動きを中央部の余白で生かし、下部の鋭いひきしめで印象的な作となつた。上部の終筆部がやや上すべりになつた感あり。 (大雲評)

◆呼吸に落ちつきがあり、強い線にゆとりを感じます。安定したまどめ方で少々優等生過ぎないかとも思いますが時には冒険してもいかが。 (春洋評)

かな (前橋) 碓井 弘

### 「ふる雪は」



180×54cm

碓井 弘書

現代詩文書 (蒼原) 熊谷青山

### 「坪野哲久の歌」

熊谷青山書



168×48cm

角田悠香書  
178×48cm

◆余白から見れば、上部「塊」の終画部分から下が生きて緊張感がある。上部の「塊」はやや単調で力が足りないか、起筆部分はよいが…… (春洋評)  
◆量感の違いを白の配分で軽快にまとめた。個人的には下部の、シャープで打てば響くような線が好きですが、動きが豊かでゆとりを見ます。 (洋子評)  
◆線にリズムが表われて来たようで、見ていて終りまで一貫しています。上部が少し重いように感じますが、下で軽妙に受けてくれたよう。 (倫子評)

◆行間の変化の工夫に、かなとしての理を窺わせ、線の流れにも確かなものがあるが、墨色が汚くて残念です。紙質と墨の濃度も関係します。 (洋子評)

◆胸の鼓動が伺えるような筆の流れを感じます。筆先の鋭さが表現されるものとないものがあるのは紙質と墨の濃度によるのでは。 (倫子評)

◆大きな運筆のリズムで見せる前半一行の動きは明るく爽快な感あり。後半二首目のやや押えた表現は構成の面白さは理解できるも線が弱い。 (大雲評)

◆やや字形に無理があるものの、筆毛

の開閉を生かした大胆さには作品に不可欠な力を感じます。特に二行目のバランス感覚に惹かれます。 (洋子評)

◆大胆に濃淡、潤渴の変化を加えた研究に敬服。一行目下部の「蝶」が強すぎてバランスをくずしたかも。開いた渴筆線は弱くなり易いので注意。

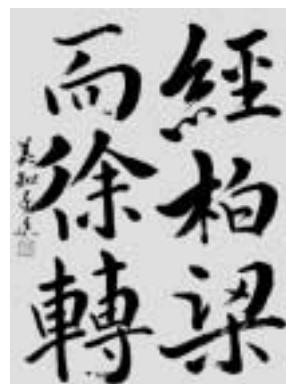
(春洋評)

◆墨のかたまりと、かすれとを上手に組み合わせ紙面全体に変化が表現されリズム感が漂つてくる。かすれ線の間の「ゆ」に一考を。 (倫子評)

◆大胆な潤渴、破筆の効果を生かし、動きある作。潤筆部の厚味に対し、破筆部分の軽さが目立つ。厳しい線質を追求してほしい。 (大雲評)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



後 藤 美知子

◎漢字研究部總評

**漢字研究部**　**特派 後藤美知子**

調和よく安定感あり、文字の姿体伸びやかで、心にゆとりを持った運筆で表出した穏やかな筆勢が心地よく胸を打つ。静かな表情の中に生命感があふれ、品性豊かな作品となっている。

◎**漢字研究部 総評**

書を学ぶ人皆手本を見て学ぶ。故に手本の善し悪しは影響が大きい。古典は最上の手本

として尊ばれている。それなのに何故かそれを壊した別手本を見て学んでいる人が多い。手本（古典）も時間ももつたらないな／手本の文字の形は理解しやすいはずだが、随分違う見方をしている人もいる。線質や用筆は分かりにくいかもね。でも太さの違いや変化はどう？用筆はやっぱり先生に頼るしか知らないかな／でも根気よく原本を見て、その秘密を探ってください。目を肥やす。養え。

京順芳雅翠祥  
子子蘭邦江風

晴翠智谷和和  
子華広惠美敬

朱郁太汎卿翠  
華子無城舟徑

惠雪孫岳加青  
代  
泉纂功峰子山

かな研究部  
(和泉式部続集切上巻切)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品

碓井 弘

◎かな研究部総評

◎かな研究部総評

## かな研究部成績表

遷正富北竹千霜己亥華佐秀前藤五坤澄皓幕澄高百大京高澄土千咲青洞詢青高北千正己卯石千大森大童華佑英有青秀藤  
外華貴陸美葉未生祥倉峰橋葉玄春映張春陵谷雲橋陵春氣葉舟菁書局峰陵陸字華未玄舟葉阪地雲泉祥希峰秋峰峰  
157  
名鶴若吉横湯湯山山山柳八八森村官松松增前本掘堀蘿深平平原林瀧野野田丹西永中中内戸富東積土玉田武高高開鈴  
氏沼城木本根田崎口重田重田山島花田鄉切川堀山山田村羽丹岐守井山澤藤村田平谷田木中中橋河野口木  
本名好恵四蘭禮桂美静桜政順溪涇珠幸映翠華麗谷幸福壽清優彩京京雙竹陽成悅宏尚雅古博藝綱雅芳幸昌天利子  
略好恵四蘭禮桂美静桜政順溪涇珠幸映翠華麗谷幸福壽清優彩京京雙竹陽成悅宏尚雅古博藝綱雅芳幸昌天利子  
江子子舟月子江江毅敷風平華秀子子舟鶴雪調子子塘博彩子雲江葉翠子枝代苑蘭峰

# 毎日「現代日本の書代表作家台北展」

## 「故宮博物院 晋唐書法名蹟展」

会期＝平成20年9月28日(日)～10月8日(水)

会場＝台北・国立国父記念館

主催＝毎日新聞社・財毎日書道会・国立国父記念館

### 書道芸術院参観団

報告 辻 元 大 雲

毎日書道展60回記念事業の一環として開催された「現代日本の書代表作家台北展」は、ブラジルサンパウロ展とともにほぼ同時期に盛大に開催された。

毎日書道会として台北で代表作家展を開催するのは初めてであったことは少し驚きであったが、台北故宮博物院での「晋唐書法名蹟展」の開催が実現し、さらに充実した企画となつた。毎日書道展60回記念事業の基本構想を検討する「事業企画委員会」の委員長を担当した立場からこの間の経緯を振り返つてみたい。

当初、委員会の意見の大勢は、海外展開催にはあまり積極的ではなく、国内展の充実、特別企画展の内容を主に話し合つた。最も強い意見は、台北故宮博物院の書蹟名品の日本国内での展示であったが会場問題、東博クラスで

なければ無理であり、かつ2年前ぐらいではとても企画が入らない。さらに台湾側の故宮文物国外展示に対する極めて高いハードルがあり、あきらめるを得なかつた。そこで実現したのが「春敬の眼」＝飯島春敬コレクション」の展示を国立新美術館の1棟を使用した特別展である。

台北故宮博物院の文物については日本での開催が無理なら故宮で書を中心とした名品展の企画を実現させられな

いかということで、毎日書道会が台北

故宮博物院及び関係当局へ強力に働きかけた結果、諸々の経過をたどりながら「現代日本の書代表作家台北展」の開催にあわせ「故宮博物院 晋唐書法名蹟展」企画を実現させた。毎日側の働きかけがなければこの特別展は実現しなかつたと思う。この種の書法の名品の特別展示は10～20年に1回くらいしか開催されず今回は正に必見の名蹟展であった。

本展開催にあわせ大訪台団が訪れ、800名を超える大掛かりな訪問団と

なつた。書道芸術院としても10月2日(木)から4日(土)(一部5日(日))までにかけ総勢90名を超す会員諸氏が参加。折悪しく院秋季展、恩地理事長の個展会期中であったが、よく皆さん参加してくださつたと思う。

「現代日本の書代表作家台北展」については担当役員として会期中滞在された種谷萬城氏の稿に譲ることとした。

訪台団は2日(木)、中央研究歴史語言研究所で甲骨文や木簡などを参観

後、龍邦僑園会館にて西林昭一先生の「晋唐書法名蹟展」特別講演会に参加。具体的な内容で非常に参考になる講演であった。夕食会を書道芸術院3団一緒に三徳ホテルレストランにて賑やかに開催。恩地理事長は役員としての夕食晚餐会に出席のためご一緒できなかつたが大いに気勢を揚げ、楽しい一時であった。宿泊ホテル、院関係は同じ兄弟大飯店。

3日(金)、午前国立国父記念館での「現代日本の書代表作家台北展」の開幕記念式典、中山国家画廊での展覧会参観。開幕セレモニーは通訳を交えかなり時間がかかった。展覧会場はホールをはさんで左右に分かれおりわりにくかつた。1000人近くの人がいつぶんに入るため大混雑でゆっくり見られなかつたのが残念であった。

午後は団ごとに行動、故宮博物院

「晋唐書法名蹟展」を参観した成田団は夕方の祝賀会にあわせるため時間が足りず、結局翌日も訪れることとした。中山樓大餐厅での祝賀会は4時半から待つこと2時間、6時過ぎからの書法交流会はわが小林琴水さんと下谷洋子さんが代表として揮毫。恩地理事長は日台代表10名による一人1文字の寄せ合い書きを行う。乾杯は7時半、ビルはすぐなくなり対応のまざさが目立つ



国立国父記念館前にて



故宮博物院にて

## 特集：現代日本書家代表書法展IN台北

台湾の国父・孫文の記念館の正面の入り口を入ると、孫文の巨大な坐像が目に入ります。その坐像を守る海・空・陸軍の衛兵は、直立不動。一時間毎に交替する厳かな儀式が見られます。そのような権威ある会場で展覧会は開催されました。

10月3日（金）9時半から、国父記念館大会堂で開幕式典が挙行されました。主催者挨拶は吉田弘之・毎日新聞

た。余興の雑技演技はなかなか見ものであった。9時過ぎ閉会。

4日（土）、成田団は予定を変更して故宮博物院見学と免税店ショッピングを午前中にすませ、午後2時過ぎの中華航空で無事帰国した。関西団も同日関空へ帰国。仙台団はもう一日滞在して余裕をもって仙台に帰国した。全員事故なく元気に訪問できたことが何よりもであった。

### 現代日本書家代表書法展

#### —N台北

報告 種 谷 萬 城



祝賀会会場  
陽明山中山楼（国賓館）にて

日本からは、約800人が参加し、盛大な展覧会行事となりました。私は千葉蒼玄先生と共に撤回を担当しました。最終日まで、会場にはカメラ片手に、真剣

に参観する参観者の姿が見られ、日本と日本書道に対する関心の高さを実感しました。

毎日書道展60周年記念「現代日本書家代表書法展IN台北」（主催・国立国父記念館・毎日新聞社・助每日書道会、後援・台北駐日経済文化代表処・淡江大学）が、2008年9月28日（日）～10月8日（水）、台北市内の国立国父記念館の中山國家画廊にて開催されました。

社編集局次長と鄭乃文・国父記念館館長。来賓挨拶は、許永德元台北市長。岸本太郎・実行委員長と鄭乃文・国父記念館館長により記念品の交換。ついで張炳煌・淡江大学教授・中華民國書学会会長による『台灣書道の現状』の

又、日本・台湾の書家各5名（稻村雲洞・廖頴祥・岸本太郎・陳嘉子・恩地春洋・嚴建中・菅野清峯・謝季芸・石飛博光・薛炳南）が一字ずつ「揮毫」（慶還曆・翰墨永飄香）を揮毫しました。祝賀会は、主催者・岸本太郎・実行委員長と、来賓・張家宜・淡江大学学長、齊藤正樹・日本交流協会台湾弁事処代表が挨拶をしました。獅子舞と伝統芸能により盛り上がった祝宴の閉会の辞は、恩地春洋・

担当理事と鄭乃文・  
国父記念館館長が行いました。

日本からは、約800人が参加し、盛大な展覧会行事となりました。私は千葉蒼玄先生と共に撤回を担当しました。最終日まで、会場には

#### 講演。

夕刻は、台湾の国賓館である陽明山中山楼の大宴会場で祝賀会。祝宴に先立って、16時半から、張炳煌先生による、台湾書法家に対する「現代日本書道の紹介」と題した講演会が行われ、質疑応答には横谷萬城が担当しました。

17時半から書法交流会が行われ、日本側は、小原道城・下谷洋子・長谷川牧風・小林琴水・堀吉光。台湾側は簡英智・陳宏勉・陳坤・李郁同の各氏が

揮毫会場にて



〈会場風景〉

美



135×35cm

浜谷芳仙

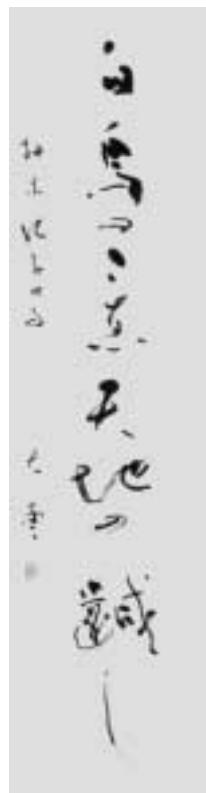
萬華



130×69cm

恩地春洋

柚木紀子の句



135×35cm

辻元大雲

水車（若山牧水）

尚



香川倫子  
70×70cm

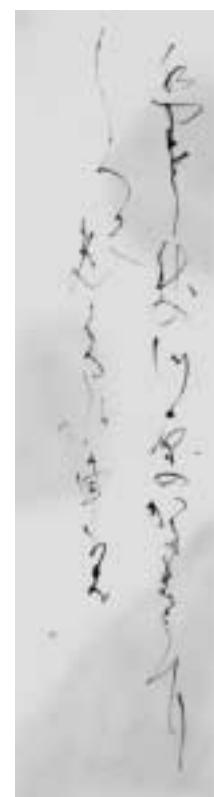
有德者必有言（論語）



135×35cm

種谷萬城

下谷洋子



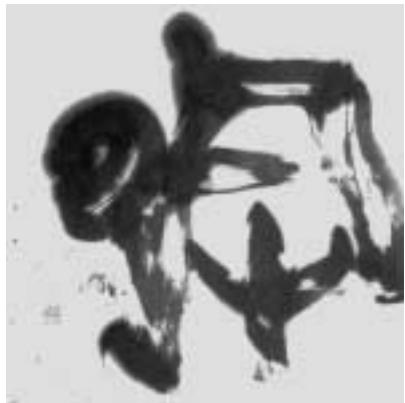
135×35cm

一心たよる



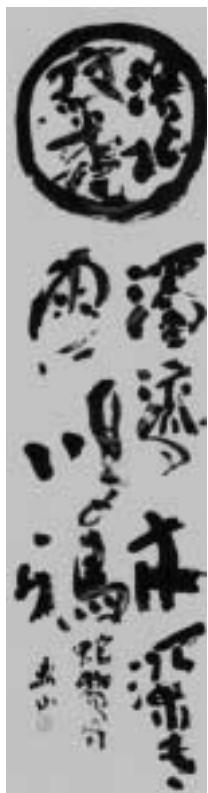
136×35cm

祈



大野祥雲  
70×70cm

洛北寂光院（飯田蛇笏）



135×35cm

尾形鼎山

板垣洞仙

銀河



鶴



小林琴水  
70×70cm

千葉蒼玄



小竹石雲  
70×70cm

136×35cm

「書道藝術」特別昇級試驗 師範合格者模範作品

漢字第三種（楷・行・草計三枚）

ペン字第三種（楷・行・草計三枚）

楷書 蘇孝慈墓誌銘臨書

楷書 蘇孝慈墓誌銘臨書

書  
畫

楷書

卷之三

卷之三

燕山半命

治中義都上士  
九府分轄六官  
遍應無所不至  
咸舉公私同美  
持績庶幾無愧  
授任年深無不  
年深無不稱職

治中義都上士九  
府分職六官聯事  
公遍厯兼治庶績  
咸舉四年 智子臨之

峨眉山月半輪秋  
影入平羌江水流  
夜發清溪向三峽  
思君不見下渝州

峨眉山月半輪秋影  
入平羌江水流夜發  
清溪向三峽思君不  
見下渝州春草書歸

行書  
倉竹

行書  
倉竹

行  
書

行  
書

白雁寒沙  
月黃雲老  
樹秋

白雁寒沙  
月黃雲老

峨眉山月半輪秋  
影入平羌江水流  
夜發清溪向三峽  
思君不見下渝州

峨眉山月半輪秋影  
入平羌江水流夜發  
清溪向三峡思君不  
見下渝州春草書

草書十七題

草書十七題

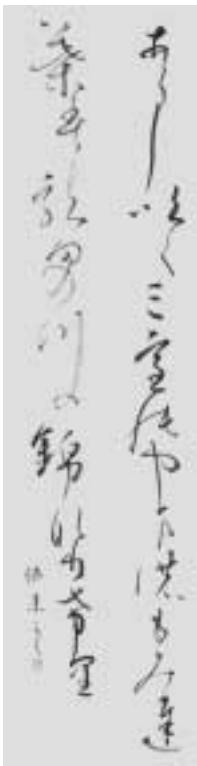
草書

弘前市  
弘前山

祐保也

故國山月遠秋  
影入巫江孤酒  
歌長清江向三峰  
里火小瓦六濤

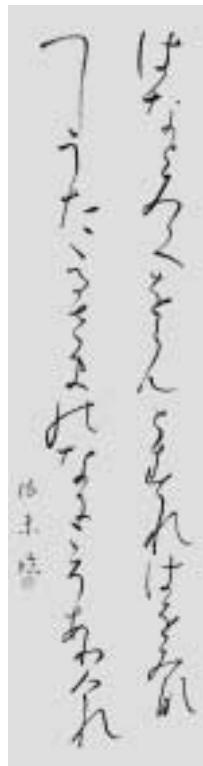
峨眉山夜半枕帆到  
入平羌江行深更寂  
清溪向三峰里去之  
见一派如玉翠玉翻



創作  
(短歌)



創作  
(俳句)



## 総評

### 生活の中から 世界の美術まで

審査長 恩地春洋

コンピュータの時代になりました。  
手書きの文字が著しく減りました。書  
離れの中で、時間をかけて書写技術を  
理解し、技術を高める努力をしている  
皆さんを敬服します。自己主張ばかり  
強くなつて辛抱することの少なくなつ  
たこの頃、一つの文字、一本の線に集  
中力を養い、長い時間をかけて技術を  
習得する努力は忍耐心や持久力を養う  
ことにつながります。

今秋の昇級試験に師範挑戦者が増え  
ましたが質の向上著しく、水準の高い  
競争でした。基本から応用まで、一つ  
一つの段階を越えて高めていく皆さん  
の姿を作品を通して拝見しています。  
皆さんに日本の伝統文化を受け継ぎ、  
発展させてくれることを信じて疑いま  
せん。

紙数が少しありますので、感じたこ  
とを少し書き足しておきます。「美し  
い」ということを意識してください。  
市販の墨汁と、磨墨した墨汁では、色  
も書く感触も違います。書く紙によっ  
ても色が変わります。書く筆によって  
線の強さが変わります。いつも同じ筆  
や紙で書いていては、いろいろな

美しさのあることがわかりません。文  
字を理解し、字形を整えるばかりでは  
高度の美に近づくこともできません。  
書の美しさを更に探検してください。  
書は世界に誇る美術です。

### 各部短評

#### 漢字

(一種) 高貞碑は造像記のように鋭い  
入筆が必要である。また楷書でも時代  
が古くなると正方形に近くなるが、縱  
長になっている作も見うけられた。よ  
く目を洗って見ること。(千葉蒼玄)  
(二種) 臨書は普段のつみ重ねが大事  
だと思います。蘭亭叙を試験の時だけ  
ではなく常に勉強している人とはつきり  
差がでていました。楷書はもう一息と  
言う人が多く見られ残念。(香川倫子)  
(三種) 楷書臨書の甘さが目立った。  
墓誌銘の特徴である切れ味の鋭さ、形  
のまとまりが不足した作は見劣りする。  
行書創作、十七帖臨書も普段の学書の  
結果が現れないと感じた。(辻元大雪)

#### かな

(一種) 全体的に原本に忠実に書かれ  
ていた。型にとらわれ、筆力の弱い作  
品も見られた。線をきたえるために多  
く習を心掛ましょう。(大辻多希子)  
(二種) 臨書は丁寧な良い作が多く  
いた。創作はかなの優美さ連續の余韻な  
く表面的な作品が多かった。学書の仕

方も考慮され、専門の先生に教示されるのも良いかと思います。（見越雪枝）

### 漢字条幅

(一) 楷書・行書と各自自由な書法で書かれ、古典研究をしつかり捉えた結果が随所に見られました。但し、行書で書作の場合には、潤滑の表現力に気をつけてください。（半田藤風）

(二) 楷書は初唐の三大家の書風を鑑賞した上で「孔子廟堂碑」の臨書をするのが望ましい。行書の技法が総体的に劣るので「蘭亭叙」などを徹底的に学ぶ事を期待したい。（最昌翠風）

### かな条幅

(一) 紙面に対して文字が、大き過ぎるもの、又極端に小さ過ぎるものも目立ちました。墨色の濃すぎるものも多く見られ、一言にいえば、丁寧に書く事に心掛けてください。（黒川江摩子）

(二) 排句の散らしさバランス良くまとまっていますが、短歌は文字数が多いので紙に対しての文字の大小を考えたり、適切な漢字を入れたりして、よく構想をねることです。（朝倉春江）

(三) 一般的に作品に濁点は打ちません。また、かな遣い（例もみぢ）の誤りも散見。墨汁と思われるものも多く、年一回の試験ですので、十分な配慮をもって臨んでください。（下谷洋子）

### ベン字

(一) 規定違反作も殆んどなかった

## 「書道芸術」 特別昇級試験 師範合格者

漢字		かな条幅		ベン字	
63名		7名	29名		
恵泉	山崎	生大	"	京橋	天璋
十年	葛田	名取	"	合田	三木
林	高橋	美紗	"	大橋	星子
志田久美子	永峰	春翠	"	佑朋	白琉
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	遊春	関谷
声香	遠藤	春翠	"	河野	大橋久美子
高橋	華香	大曾根康舟	"	渡辺	正華
甲和	涼萩	生大	"	菖月	宮崎愛美
郷州	松美	君島	"	有田	高眞
高藤	恭子	春翠	"	正江	大橋明美
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	寺村	伊藤美智子
声香	遠藤	生大	"	吉沼	有田正江
高藤	華香	君島	"	春花	高眞
甲和	涼萩	春翠	"	善高	関谷明美
郷州	松美	大曾根康舟	"	寺村	白琉
高藤	恭子	生大	"	吉沼	天璋
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	春花	三木
声香	遠藤	春翠	"	善高	星子
高藤	華香	大曾根康舟	"	寺村	白琉
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	関谷
郷州	松美	君島	"	春花	大橋久美子
高藤	恭子	春翠	"	寺村	高眞
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	生大	"	春花	三木
高藤	華香	君島	"	善高	星子
甲和	涼萩	春翠	"	寺村	白琉
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	生大	"	春花	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	寺村	高眞
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	天璋
高藤	華香	大曾根康舟	"	春花	三木
甲和	涼萩	生大	"	善高	星子
郷州	松美	君島	"	寺村	白琉
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	春花	大橋久美子
声香	遠藤	生大	"	寺村	高眞
高藤	華香	君島	"	吉沼	天璋
甲和	涼萩	春翠	"	春花	三木
郷州	松美	大曾根康舟	"	善高	星子
高藤	恭子	生大	"	寺村	白琉
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	関谷
声香	遠藤	春翠	"	春花	大橋久美子
高藤	華香	大曾根康舟	"	寺村	高眞
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	天璋
郷州	松美	君島	"	春花	三木
高藤	恭子	春翠	"	善高	星子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	寺村	白琉
声香	遠藤	生大	"	吉沼	関谷
高藤	華香	君島	"	春花	大橋久美子
甲和	涼萩	春翠	"	寺村	高眞
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
高藤	恭子	生大	"	春花	三木
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	善高	星子
声香	遠藤	春翠	"	寺村	白琉
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
甲和	涼萩	生大	"	春花	大橋久美子
郷州	松美	君島	"	吉沼	高眞
高藤	恭子	春翠	"	春花	天璋
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	三木
声香	遠藤	生大	"	吉沼	星子
高藤	華香	君島	"	吉沼	白琉
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	関谷
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
高藤	恭子	生大	"	吉沼	高眞
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	三木
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	星子
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	白琉
郷州	松美	君島	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
声香	遠藤	生大	"	吉沼	天璋
高藤	華香	君島	"	吉沼	三木
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	星子
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
高藤	恭子	生大	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	大橋久美子
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	高眞
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	三木
郷州	松美	君島	"	吉沼	星子
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	白琉
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
声香	遠藤	生大	"	吉沼	大橋久美子
高藤	華香	君島	"	吉沼	高眞
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	天璋
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	三木
高藤	恭子	生大	"	吉沼	星子
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	白琉
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	関谷
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	高眞
郷州	松美	君島	"	吉沼	天璋
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	三木
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	星子
声香	遠藤	生大	"	吉沼	白琉
高藤	華香	君島	"	吉沼	関谷
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	大橋久美子
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
高藤	恭子	生大	"	吉沼	天璋
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	三木
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	星子
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	関谷
郷州	松美	君島	"	吉沼	大橋久美子
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	高眞
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	生大	"	吉沼	三木
高藤	華香	君島	"	吉沼	星子
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	白琉
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	生大	"	吉沼	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	高眞
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	天璋
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	三木
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	星子
郷州	松美	君島	"	吉沼	白琉
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
声香	遠藤	生大	"	吉沼	高眞
高藤	華香	君島	"	吉沼	天璋
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	三木
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	星子
高藤	恭子	生大	"	吉沼	白琉
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	関谷
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	大橋久美子
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	天璋
郷州	松美	君島	"	吉沼	三木
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	星子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
声香	遠藤	生大	"	吉沼	関谷
高藤	華香	君島	"	吉沼	大橋久美子
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	高眞
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
高藤	恭子	生大	"	吉沼	三木
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	星子
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	白琉
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	大橋久美子
郷州	松美	君島	"	吉沼	高眞
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	天璋
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	三木
声香	遠藤	生大	"	吉沼	星子
高藤	華香	君島	"	吉沼	白琉
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	関谷
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
高藤	恭子	生大	"	吉沼	高眞
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	三木
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	星子
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	白琉
郷州	松美	君島	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
声香	遠藤	生大	"	吉沼	天璋
高藤	華香	君島	"	吉沼	三木
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	星子
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
高藤	恭子	生大	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	大橋久美子
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	高眞
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	三木
郷州	松美	君島	"	吉沼	星子
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	白琉
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
声香	遠藤	生大	"	吉沼	大橋久美子
高藤	華香	君島	"	吉沼	高眞
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	天璋
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	三木
高藤	恭子	生大	"	吉沼	星子
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	白琉
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	関谷
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	高眞
郷州	松美	君島	"	吉沼	天璋
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	三木
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	星子
声香	遠藤	生大	"	吉沼	白琉
高藤	華香	君島	"	吉沼	関谷
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	大橋久美子
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
高藤	恭子	生大	"	吉沼	天璋
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	三木
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	星子
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	関谷
郷州	松美	君島	"	吉沼	大橋久美子
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	高眞
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	生大	"	吉沼	三木
高藤	華香	君島	"	吉沼	星子
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	白琉
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	生大	"	吉沼	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	高眞
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	天璋
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	三木
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	星子
郷州	松美	君島	"	吉沼	白琉
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
声香	遠藤	生大	"	吉沼	高眞
高藤	華香	君島	"	吉沼	天璋
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	三木
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	星子
高藤	恭子	生大	"	吉沼	白琉
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	関谷
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	大橋久美子
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	天璋
郷州	松美	君島	"	吉沼	三木
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	星子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
声香	遠藤	生大	"	吉沼	関谷
高藤	華香	君島	"	吉沼	大橋久美子
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	高眞
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	天璋
高藤	恭子	生大	"	吉沼	三木
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	星子
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	白琉
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	関谷
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	大橋久美子
郷州	松美	君島	"	吉沼	高眞
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	天璋
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	三木
声香	遠藤	生大	"	吉沼	星子
高藤	華香	君島	"	吉沼	白琉
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	関谷
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	大橋久美子
高藤	恭子	生大	"	吉沼	高眞
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	天璋
声香	遠藤	春翠	"	吉沼	三木
高藤	華香	大曾根康舟	"	吉沼	星子
甲和	涼萩	生大	"	吉沼	白琉
郷州	松美	君島	"	吉沼	関谷
高藤	恭子	春翠	"	吉沼	大橋久美子
玉州	佐々木桂瑠	大曾根康舟	"	吉沼	高眞
声香	遠藤	生大	"	吉沼	天璋
高藤	華香	君島	"	吉沼	三木
甲和	涼萩	春翠	"	吉沼	星子
郷州	松美	大曾根康舟	"	吉沼	白琉
高藤	恭子	生大	"	吉沼	関谷
玉州	佐々木桂瑠	君島	"	吉沼	大橋久美子